

ねらい・目的



1校だけではなかなかできない取り組みでも、多くの学校が情報を交換し合いながら進めることで達成することができるものである。このプログラムの特徴は、生徒会活動を中心にして学校全体の取り組みとして行うことにある。さらに、同じ地区の十数校が力を合わせて環境教育の一環として取り組むことで、生徒は学校生活以外でも環境問題に関心を持ち、校外生活でもエコ活動を行うようになり、地域や家庭との連携も図ることも可能となる。

取り組みの背景として



多くの学校では、生徒会や学級単位でエコ活動を行っています。

しかし

活動が学校内の取り組みとして終わることが多いのが現状です。

そこで

札幌市の各学校が環境行動を行ってもらえるよう、札幌市が学校内のエコ活動を円滑にし、学校間の情報交換を行なう場としてイベント等を開催します。

取り組み項目(実施方法)



- ①各学校で「エコ活動」がスタートする
- ②生徒会本部や委員会などがエコ活動を企画し、実行する
- ③科学部などが、環境に関する研究を実施する
- ④新聞部などが「エコ活動」を支援する記事を掲載する
- ⑤放送局などが「エコ活動」を取材し番組を制作する
- ⑥学校行事として「エコ活動」を展開する
- ⑦これらの取り組みをまとめ、作品や番組、プレゼンテーションを作成する
- ⑧「〇〇区第1回エコサミット」を開催する
- ⑨この中で、発表を行う（詳細は後述）
- ⑩各賞を決定する

取り組み1

環境をテーマとする各賞の概要（案）

各賞の概要

①応募作品の部

環境問題に関する文学作品、絵本、パンフレットなど、出版可能な作品
(短編小説、児童文学、童話、詩、絵本、環境パンフレット など)

②児童会・生徒会の部

環境問題に関して児童会・生徒会での取り組みを発表する
(スライド、パワーポイント等を使用したもの)

③報道の部

環境問題をテーマにした放送番組、新聞記事などの発表

※応募資格（案）

札幌市内の中学校・高校（市立高校以外でも可）に在学する生徒

賞（案）

- ①応募作品の部・・・最優秀作品は出版し、札幌市内各学校や区民センター等に寄贈する。
- ②児童会・生徒会の部・札幌市長賞や環境局長賞を用意し、副賞を設定する。
- ③報道の部・・・最優秀作品(番組)は放送局を通して ON AIR する。
新聞記事は新聞社で記事にしてもらい、報道する。

取り組み2

第1回〇〇区生徒会環境問題連絡会議（エコサミット）に向けて〇〇区内全中学校の生徒会が「自分の学校でできるエコ活動」で、各学校で工夫して次の様なエコ活動を行うことが考えられる。

- ①牛乳パックリサイクル
- ②リングプル集め活動
- ③Sapporo エコライフ実践校の取り組み

生徒会の1年の活動

- 1月 〇〇区エコサミット参加決定
- 2月 生徒会本部で本校のエコ活動の案作成
- 3月 生徒会指導部で原案作成
職員会議での審議
- 5月 生徒総会(全校協議会)での審議
(学級審議)
- 6月 実際に活動する
- 8月 〇〇区エコサミット開催
- 9月 生徒会もしくは放送局がその様子をVTRに録画する
- 10月 生徒総会の中間の報告をする
- 11月～1月 活動をまとめる

発展的なプログラム



- ・ 1つの区ではなく、複数の区で同じ取り組みをすることも可能であり、効果も大きい。
(例) 豊平区と南区の学校が合同で「牛乳パックのリサイクル」を取り組む
- ・ 最終的には全市で取り組むことも可能である。
(例) エコサミット in Sapporo・・・全市の中学校 100校がエコプロジェクトを展開

取り組み効果



効果

例えば全区が同じ取り組みをし、中学校約 100校が給食の牛乳パックを一斉にリサイクルすることで環境保全に貢献できる

- ・ 学校給食牛乳パック年間回収量 約 173,780 k g
- ・ トイレトペーパーに交換すると約 965,444 個
- ・ 現金での回収 約 1,737,800 円
- ・ この取り組みによって防げる木の伐採は、1年間で 1619 本
- ・ この数は札幌ドーム約 1 個分に相当する
- ・ この行動により、環境問題により意識しながら、毎日の活動が営まれることになる

他のプログラムとのつながり



■Sapporo エコライフ実践校の取り組み（中学・高校編）

環境 ISO を含め、全校的な環境配慮の取り組みを推進する。

参考資料等



ISO14001 に関するホームページ

- ・ 財団法人 日本適合性認定協会
<http://www.jab.or.jp/mas/index.html>
- ・ 財団法人 日本規格協会
<http://www.jsa.or.jp/>